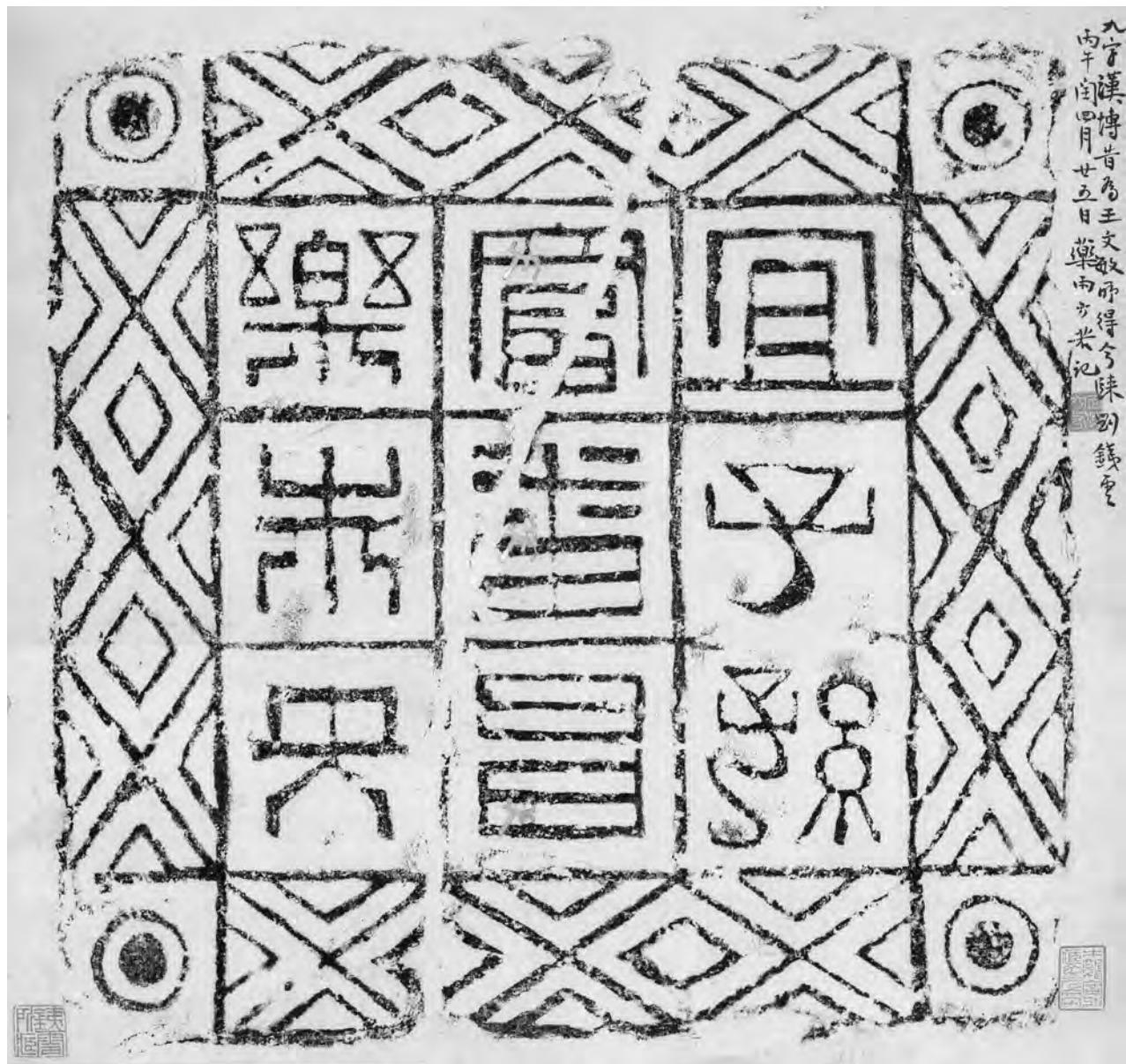


主図版①

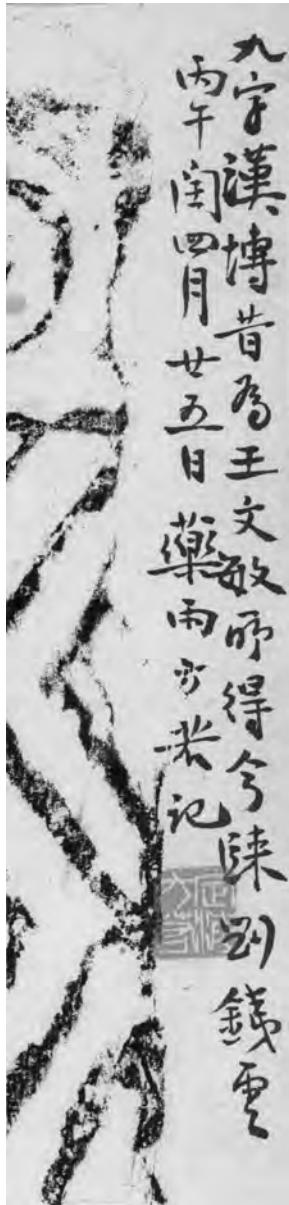


樂未央

富益昌

宜子孫

図版② 方若の題記



図版③ 劉鐵雲の館蔵印



碑（図⑤）を示します
（図④）と、この碑とほぼ同じような
書風の八字
（書斎名・
伊藤滋
木鶴室）
を示します
た。比較し
てみてくだ
さい。

図版④ 主図版①と同範の原磚



図版⑤ 「富樂未央 子孫益昌」八字磚拓本



縦横が三十二センチあまりの、ほぼ正方形の磚です。周囲には直線を組み合わせた菱形模様が周囲に置かれ、隅には古代の鏡の円い乳の様な突起で飾られ、その中を界線で九分割し、篆書で九字「宜子孫 富益昌、樂未央」が布置されています。子孫繁榮し、益々

豊かに、楽しみが尽きることなくの日出度い言葉です。この九字の篆書は、直線が多用され、やや堅い書風ですが、二字目の「子」の下に伸ばし左に押し出した点画は、まるで隸書の波磔の様な伸びやしさを見せていました。またその次の「孫」字の「子」部分も更に点画をうねらせ同じような抑揚を生み出しています。この二箇所がやや趣の異なる筆勢を示し、全体に幾分かの微妙なアクセントを醸し出しているようになります。この拓本の右端には、清末民国时期の金石家・方若（1869～1954年）の所蔵印があります。方若は薬雨（1845～1900）、清末の学者（官僚）の二十字余りの題記（図②）があり、「この九字の磚は以前、王懿榮（おういえい、1845～1900、清末の学者（官僚））の所有である」と記している。當時、この原磚は、当時の名家の所蔵であったことが知られます。左下には、劉鐵雲（りゅうてつうん、1857～1919年）の「鐵雲所藏」の印（図③）が捺されています。

最後に、この拓本と同範の磚の写真（図④）と、この磚とほぼ同じような書風の八字（書斎名・伊藤滋木鶴室）を示します。比較してみてください。

「秦漢時代の瓦当と磚文」

⑩「宜子孫 富益昌 樂未央」 磚

書道芸術院

平成の群像 (2017)

「慈」

岡本春映書



岡
本
春
映

「継 続」

昨年の秋、「恩地春洋先生を偲んで…」のテーマで春洋会書展が開催されました。この写真はその時の作品です。6月に先生が亡くなられ、虚しく何もする気になれず、でも先生を思いながら、そのお人柄にふさわしい「慈」を選び、文字の意味を大切に伸びやかに表現しようと心を込めて書きました。

先生はいつも「書は線が命、筆が紙に強く当っているか、自分の呼吸に合わす」等色々とご指導をして下さいました。

長男が小学一年生の時、成育小学校にP TA書道クラブが出来ました。その時、初めて恩地先生にお会いしました。私は会社に勤めており、日常の字が美しく書きたいと願って入会しました。

後に、京橋教室や木曜講座も開かれ、諸先生方と共に臨書や創作その他色々と何枚も何枚も夢中で書きました。懐かしい思い出です。

今後は強さを内に秘めた味わいのある書作が出来るように心がけて自分を磨きたいと思います。

書を通じ、素晴らしい人生に出合うことが出来ました。また、かけがえのない仲間も出来て嬉しく感謝しております。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

書道芸術院創立70周年記念 役員作品巡回展・関西総局展開催

巡回展10会場目になる関西総局展が大阪市立美術館にて9月13日から18日まで開催された。今回も巡回展・総局書展も併催され多彩な内容で行われた。

16日午後3時から会場内にて作品解説会が本部より担当の理事長、後藤大峰常務理事、嵯峨大拙理事のほか下谷洋子常務理事、現地の小伏竹村顧問、小林琴水理事、小伏小扇名譽会員などもコメントーターとしてご参加いただき約一時間充実した解説会であった。

あいにく台風接近で悪天候の中、韓国書芸家林先生ご一行8名の歓迎会が夕食を共にしながら開催され友好交流を深めた。

翌17日前、玄遠社書展の表彰式が天王寺都ホテルにて児童生徒一般の入賞者多数が参加して開催された。台風の影響で大阪市内全域に暴雨警報が発令されたため、美術館が10時30分で臨時閉館となり、参観者関係には大変な迷惑を被ることとなつたのは残念であった。表彰式はホテルで無事盛大に挙行されたが午後1時からの祝賀会は

多くのご来賓がご臨席くださったもの、肝心の展覧会をご覧になれなかつた方が多数おられた。

祝賀会は韓国代表団を交え毎日新聞社ほか多数のご来賓にお出でいただき盛会であった。珍しい人形淨瑠璃による祝舞でオープニング、主催者挨拶を理事長が行い、韓国林先生、毎日新聞大阪本社今西部長からご祝辞をいただき、盛大会であった。心配された台風の影響はあまり見られず、警報は誤報では?など噂も飛び交つた会であった。

両先生からは温かい激励のお言葉をいただき感謝。両先生からは温かい激励のお言葉をいただき感謝。

書道芸術院秋季展・役員作品全国巡回展・東京総局展開催へ

今回は財団役員・審査会員選抜作家124名、審査会員候補公募359点、208名より選考された秋季菊花賞11名、秋季俊英賞40名計51名がセントラルミュージアム銀座に展示、アートサロン毎日には推薦作家5名による一人7mに展開する大作が展示される。推薦作家は谷田熾箋(漢)、九條純代(か)、浅利祥紫(現)、市川公山(篆)、後藤法明(前)の5氏。

東京総局展は巡回展作品と共に紙パルプ会館2階フェニックスホールにて開催される。

全日本書道連盟講演会開催

* 書道講演会開催
日時 11月15日(水) 14:00

会場 国立新美術館3階講堂
講師 陳靜先生(駐日中国大使館)

聴講は無料(ぜひご参加を)

・連盟会員加入を

毎日書道展会員、本院審査会員以上は正会員として加入できます。連盟の事業を推進するために是非ご加入をお願いします。入会申込書などは事務局までお問い合わせください。

身的なご協力で立派に開催できたことは、西岡雨瑠支局長、齋藤雨城名譽会員のご努力によるものである。改めて深く感謝申し上げたい。初日26日に理事長、下谷洋子、小竹石雲両常務理事が会場を訪れ作品解説などを行った。既に夕刻より地元の中野北渕・小原道城両先生ほかをお招きして小宴が開催された。

事務局は温かい激励のお言葉をいただき感謝。両先生からは温かい激励のお言葉をいただき感謝。

・各資格のサイズが大きくなる。 ただし、全て最大寸法でありそれ以内ならば出品可能。

例 審査会員 每日展役員サイズになるとがこれまでの毎日展公募サイズでの出品も可能。用紙の準備や、制作上可能なサイズで柔軟に対応してください。審査会員候補以下も規定サイズ以内であれば出品可能です。既定の貸枠サイズなどもあらかじめ調べておくことも大事です。

* 注意点

第71回書道芸術院展作品サイズ 変更について

6月開催の第71回書道芸術院展運営委員会にて、各資格ごとの作品サイズの抜本的な見直しを行いました。既に出品要項に発表されておりますがご準備よろしくお願ひします。



作品解説会の様子

書道芸術院創立70周年記念 役員作品巡回展・北海道支局展開催

9月26日から29日まで、札幌大通美術館にて巡回展に併せ北海道支局展が開催された。会員数が少ない中で苦労が多かったと思われるが、皆さんの歓迎

* 表彰式・研究会 3日午後2時～
会場 フェニックスプラザ銀座会議室
* 祝賀懇親会 3日午後6時開宴
会場 コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

漢字(一)

小伏小扇

甲骨文の書表現(一)

大字書の表現が次第に類型化しはじめたころ、甲骨文の簡明さと現代性に魅了され、これを素材に書作することを思い立ちました。その道のりをお話したいと思います。

甲骨文は現在使われている漢字の祖先であることははっきりしています。しかも体系的な文章が書ける最古の文字ということになります。私が思い立ったころは今とくらべますと資料も少なく苦労でした。中国研修の時、偶然栄寶齋の近くにある書店で参考になる



(一)写実的臨書「今日其夕風」

小伏小扇臨

本を見つけ、喜んで帰国した

記憶があります。

さて甲骨文拓に、「今日其夕風」と彙ってあります。

「今日、其^モ夕^モに風ふくか」

と読みます。現在の「風」ではなく「鳳」です。古代人は

鳳が風を運んでくると考えていたようです。したがって甲骨文で表現する時、風を「風」と書くと誤字になります。写実的臨書からはじめました。

21世紀の書 —私の主張—

現代詩文書(一)

西岡雨瑠

書との出会いから!!

北緯43度、東経143度に、私の書を歩む第一歩がある。そこは、北海道十勝平野の狩勝峠を下る



西岡雨瑠書

第50回書道芸術院展出品「田中冬二詩」

街、新得町。厳寒時は零下20度にさがる。私はこの町で育った。そこにお寺があり、小学校4年生の時に出会った。日曜日の朝、本堂の静寂なたたずまいの中、御線香の香りとともに稽古が始まる。今にして思うあの頃住職の声は、いつしかお經のように響いていた。礼にして始まる厳しい指導、5年間の朝稽古が、いま脳裏に蘇つてくる。これが私の書の原点である。この地で書を志し、後々引き入れられた現代詩文の世界の魅力とは何かを、これから約6ヶ月間、ゆっくり思索していく。できない。その前にいったい自分は何をしたいのか、自分を探し追求する時期が来ている。長い空白におけるのきながら、自己を凝視していくであろう。

掲載の作品は、第50回書道芸術院展出品作である。田中冬二詩の全集を古本屋で発見、追いかけ、詩のやわらかさ、やさしさ、心を踊らせ、多字性の中に余白のある、情緒の美を求め、心豊かな線をねらって、書きつづけていた頃です。この先冬二詩にどんどんとめり込み幸せな書の時代を感じたものです。

平成29年度 新審査会員作品

II

伊藤紫邦（漢）・猪又理扇（漢）・河岡星扇（漢）・佐藤芳石（漢）



河岡星扇
(大阪)



伊藤紫邦
(長野)

「不言之教」

この言葉は吾が師、宮澤梅
径先生の日常の姿です。「習
い事をするには、その師の人
柄を学ぶように」と夫に言わ
れ早くも40余年が過ぎました。
温厚篤実な生き方と、書の深
さを不言の中に教えて下さる
姿に、従い行ける幸せを感じ
ます。昇格の榮に恥じない
様に。

(紫邦)

永遠に学徒たれ！
小伏竹村先生、小伏小扇先
生両先生ご指導の元、仲間と
学び合い競い合い、時に旅を
し、心を開き「書の道」への
思いを一つにし励んでまいり
ました。
思いがけぬ昇格に驚き、荷
の重さを感じつつも「今が始
まり」と肝に銘じ、学ぶ楽し
さが生きる喜びになつております。

(星扇)



佐藤芳石
(富城)

「宝」

素晴らしい作品に出会った時
の感動。それは、心の中の宝
だと思います。

小さくてもよい。自分なり
に心の中に宝となるような書
作をと、願っています。

道は険しく遠いですが、こ
れまでにご指導くださいまし
た多くの先生方やお仲間への
感謝の気持を胸に、初心に戻っ
て精進したいと思っています。

(芳石)



猪又理扇
(千葉)

「山亭秋色満」

審査会員昇格大変光栄に存
じます。小学3年の担任が種
谷城南先生で、白扇書道会に
入門させて頂きました。
30年前再び、種谷扇舟、城
南南先生の元で、後に萬城先
生にご指導頂き今日に至りま
す。

(理扇)

平成29年度 新審査会員作品

清水喜代子（か）・蔵村登美（現）・菅原房江（現）・藤野一峰（現）

清水喜代子
(群馬)



清水喜代子
(群馬)

「み吉野の」

遠い都、ふけてゆく夜、
衣を打つきぬたの音。
静かな気持ちで書作してみ
ました。

感動を与え、心に響く書を

と願いつつ、凜としてモダン
な下谷先生のような書を目指
に精進したいと思います。

(喜代子)

菅原房江
(千葉)

「浜辺の歌」 林 古溪詩



菅原房江
(千葉)

京葉高校で飯高和子先生に
書道をご指導頂き人生の宝物
となりました。全国学生書道
展優勝、清澄山の講習会で勉
強させて頂いた事、良い想
出です。

この度のご推举、先生方の
ご指導のお陰と感謝申し上げ
ます。これを機会に心新たに
精進致します。作品は母の大
好きな歌を心を込めて書きま
した。

(房江)

蔵村 登美
(千葉)



「芋の露蓮山影を正しうす」
飯田蛇笏句



自然を格調高く表現してい
るこの句に出合い、杉井芳琴
先生を想い浮かべました。先
生亡き後、桐岡銘紀先生を中
心に仲間は信頼と絆を紡ぎな
がら書を継続して参りました。
今回の昇格に対し、多くの
方々に深く感謝申し上げます。
今後さらに感性を磨き、精
進して参りたいと思います。

(登美)

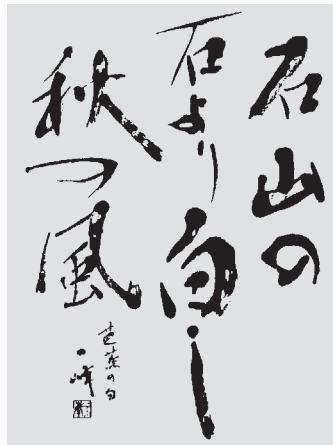
藤野 一峰
(宮城)

「芭蕉の句」



藤野 一峰
(宮城)

この度は誠にありがとうございます
ざいました。小野寺一舟先生
始め、浜田堂光先生、宮城野
書人会の先生方、書友の皆様
に深く感謝申し上げます。
文字の中に色々な物語を織
り込めたらと常に思っています。
自然の中で五感を鍛え、
それを作品に反映出来るよう
にこれからも精進努力してい
きたいと思います。（一峰）



6

平成29年度 新審査会員作品

若田文邑（現）・神澤凌雲（前）・守護英子（前）

「焦るな急ぐな」

坂村真民詩

若田文邑
(岡山)



若田文邑
(岡山)

この度は、審査会員に昇格させて頂きありがとうございました。ご指導下さいました。小竹石雲先生に感謝いたしました。いつも心細やかにご指導を頂きました、今日迄続けて事ができ、継続の大切さを感じております。

この作品は、自分に向けて励ます気持で書きました。

これからも宜しくご指導お願い申し上げます。(文邑)

「無心による」



神澤凌雲
(群馬)

この度は審査会員に推挙頂き、有難うございました。これも、亡き金子魯空先生のご指導の賜と感謝申し上げます。先生の作品は淡墨の妙技と言えども、その運筆は大小の線、長短、濃淡、強弱の変化に富んだ象形となり、余白は厳しめの構成で、墨の力で線を輝かせ人の心に食い入るものでした。

このような教えに更に精進致して参ります。(凌雲)



守護英子
(富山)

「仁」

11月号でも引き続き、
新審査会員11名のご紹介をさせていただ

きます。



この度は思いがけない審査会員にご推挙頂き有難うございます。
日頃社会活動している中で「」の言葉に書の道にも通じるものと思いつけるもの思い、書作しました。良き師や書友に恵まれた事に感謝しつつ精進して行きたいたいと思います。(英子)



この度は思いがけない審査会員にご推挙頂き有難うございます。
日頃社会活動している中で「」の言葉に書の道にも通じるものと思いつけるもの思い、書作しました。良き師や書友に恵まれた事に感謝しつつ精進して行きたいたいと思います。(英子)

第53回 書道芸術院単位認定講習会（長野）

会場＝長野県諏訪市 上諏訪温泉 浜の湯

会期＝平成29年8月26日（土）27日（日）

主管 甲信越支局 代表 小浜 大明

第53回書道芸術院単位認定講習会は
甲信越支局主管にて上諏訪温泉の「浜
の湯」を会場に開催されました。
北は青森から、南は九州からと遠方

の皆さん多くご参加いただき127名の
受講者で開催することができました。
特に大阪からは顧問の小伏竹村先生に
もご参加頂き感謝の念一入です。

26日は9時30分から開講式が行われ、

辻元理事長から各分野の理解を深め、
書に対する見識を高めて欲しいとのご
挨拶のあと講習に入りました。

【書写】 講 師 牧 泰濤先生

助講師 児玉範光先生

「義務教育における書写学習の今と
これから」をテーマに点画の種類と用
筆法について学びました。併せて指導
要領の改訂に伴う「水書」についても

詳細にお話しいただきました。

開講式



【篆刻】 講 師 後藤大峰先生
助講師 佐藤香山先生
助講師 大沼樵峰先生

「壽を彫る」というテーマで講義が
スタート、時間内に仕上げる為、すで
に布字された印材を使っての作品作り
に取り組みました。横画が多い文字の
為初心者は苦労したようですが、全員
時間内に刻り上げ安堵の表情でした。



篆刻の講義



書写の講義



篆刻に挑む受講生

【漢字】 講師 川島舟錦先生

助講師 川村美泉先生

3時限目は「馬を題材にした大字書」—墨色を考える—のテーマのもと、馬一文字を濃墨または淡墨で書くという



漢字講義

「原拓書道史」
講師 種谷萬城先生
助講師 三浦鄭街先生
「山東省の書道遺跡」のタイトルで
大広間に用意された大型スクリーンを使つて、山東省にある碑について詳細な解説をいただきました。受講生の多くは、初めて耳にする碑文も少なくなく



漢字の模範揮毫

講座でした。最初に書体の変遷についての説明があり、その後講師川島先生の模範揮毫を拝見し、それを参考に各自好きな書体を使って大字作品にトライしました。

自好きな書体を使って大字作品にトライしました。

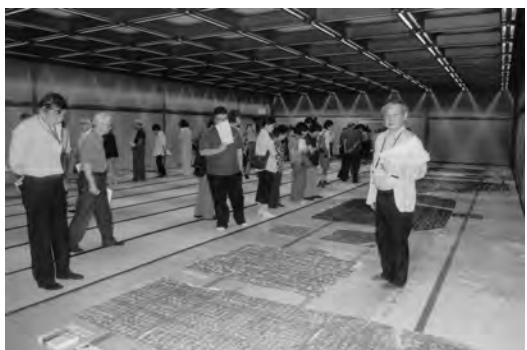
【現代詩文書】

講師 田村鄭雲先生

助講師 大隅晃弘先生

1日目最後の講義は「古典を創作に生かす」というテーマで、古典の学習の仕方等についての解説のあと田先生の模範揮毫を参考に、古典の学習

く、真剣に聞き入っていました。後半は部屋を移して原拓を間近で鑑賞しましたが、初めて目にする人も多く、食い入るように見入っていました。また、このような貴重な体験はこの講習に参加しなければ出来ないことで感動したとの感想も聞かれました。



原拓の鑑賞



現代詩文書の講義



現代詩文書の実技



御柱祭の木遣り



女性会員による踊り



諏訪湖湖上花火

現代詩文書の講座が終了後、引き続き懇親会に移りました。会場のある諏訪市は御柱祭が全国的に知られていますが、地元の木遣り保存会の皆さんによる木遣り唄が披露されたり、支局の女性会員による御柱祭の踊り等で会場を盛り上げていただきました。また、講師、助講師から提供いただいた玉作の抽選会も大いに盛り上りました。終了後諏訪湖の湖上花火大会を満喫しました。



かな 助講師の模範揮毫



かな 講師の模範揮毫

「前衛書」講師 太田蓮紅先生
助講師 千葉華紅先生
「古典と前衛書」—用具用材で楽しむ—と題し、古典と前衛書の関係や、前衛書を生かす筆についての説明、書材の選択方法などにふれお話し頂きました。受講生の中には前衛書は初めてという人も多くいましたが、皆苦労しながらも楽しい一時を過ごしたようです。

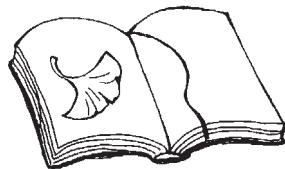
講習の最後は辻元大雲理事長による「書道芸術院史」でした。院の創立の経緯から、今日に至るまでを詳細にお話いただき、初めて参加した受講生も院の歩みに興味深く聞き入っていました。後半は院役員の作品の解説でしたが、出席されている役員からは作品制作にまつわるお話を直接お聞きすることができ出来有意義でした。

講習終了後、閉講式が行われ、次回開催の四国支局への引き継ぎで総てを終了しました。遠路ご参加下さった受講生の皆さん、ご多忙の中来信下さった本部役員、講師、助講師の先生方、

早くから運営に携わって頂いた地元役員の皆さんに心より感謝申し上げます。



前衛書の講義



書道藝術院史



前衛書 助講師の模範揮毫



認定証授与



院史 役員作品解説 小伏竹村先生・石井明子先生



四国支局への引き継ぎ



受講生代表 謝辞

書道芸術院創立70周年記念

役員作品巡回展

併催

第58回北陸支局展（書道会場）
第43回学生書道展

会期 平成29年7月28日(金)～30日(日)

会場 富山県高岡文化ホール

1階（多目的ホール）、
2・3階展示室

実行委員長（北陸支局長）

津田海仙

梅雨が明けず不安定な天候の下、7月28日(金)大石仙岳展示主任の指示により会員・学生アルバイト・東洋額装様、そして地元の信盛堂様の協力で、すっかりとした鑑賞しやすい展示となった。北陸支局は、28日(金)開幕、29日(土)午前10時30分より作品解説、午後1時より祝賀会、30日(日)午前10時より学生展授賞式、終了後揮毫会とあわただしく忙しい日程で行った。

29日㈯作品解説では、辻元大雲理事長に進行役をお願いし、院の概況、今後を説明しながら浜谷芳仙顧問とのやり取りを交えながらの作品解説。駆けつけて下さった下谷洋子常務理事に振

り、メリハリの利いた話に聞き入りながらも目は、ファンションを追う参加者。板垣洞仙理事の笑いを誘う甘口・辛口の解説に納得顔の参加者。地元の意図や思いを聞きながら、辻元理事長の名進行で解説会を終え、祝賀会場へ。

祝賀会に先立ち、浜谷芳仙顧問の米寿の祝いを兼ね、永年功労をねぎらい、宮崎芳玉の司会の下、津軽三味線の演奏で始まり約2時間の短いひと時でした。和やかで楽しい雰囲気で来賓の方々をお見送りし、閉会となつた。

30日㈰学生展の授賞式では、辻元理事長に書道芸術院理事長賞を受賞者に手渡してもらう。受賞者は緊張しきり。理事長より励ましの言葉をいただき、記念撮影の後、授賞式を終える。

揮毫会では、小浜大明担当理事が『日進月歩』を、金井如水担当理事『日輪』、辻元理事長『二上は筆華の舞』ひに夏めきて 高岡にて』の即興の俳句を揮毫。揮毫中は、静かに筆の動きを追い、印を押し終えた瞬間、盛大な拍手と、感嘆のためいき、鑑賞者の顔が目に浮かぶ。

自称晴れ男の辻元理事長来展後3日間、雨も降らず無事終えられたこと、又、その間、協力頂いた全ての方々に心より感謝申し上げ、筆をおきます。



板垣理事の解説



辻元理事長、浜谷顧問との解説の中でのやりとり



浜谷顧問のお祝い



下谷常務理事の解説

辻元理事長
主催者挨拶



祝賀会 津軽三味線演奏



学生展受賞者記念写真



辻元理事長による学生展書道芸術院理事長賞授与



金井担当理事揮毫 題：「日輪」



小浜担当理事揮毫 題：「日進月歩」



揮毫終了後の雑談 “和庵” にて



辻元理事長揮毫 題：即興自句「二上の…」

書道芸術院創立70周年記念

役員作品巡回展

併催 北日本支局展

会期 平成29年8月6日(日)～11日(金)

会場 青森市民美術展示館
(1～4階迄) 全館

実行委員長 (北日本支局長)
坂本素雪

会期は東北三大祭りの「ねぶた祭り」と重ねた。「ねぶた祭り」の期間中は美術館が空いているので、会場確保の為の苦肉の策である。天候にも恵まれ、「巡回展」も「ねぶた祭り」も最高潮のうちに無事終えた。

巡回展開催に当たり、昨年の10月30日北日本支局の総務以上の審査会員が八戸市のユートリーで初会議。実行委員会を立ち上げて準備にはいった。併催として北日本支局展も同時開催する。出品は一般公募入賞者以上とし一般公募は24点、無鑑査52点、会員候補53点、審査会員9点、総務8点、常任総務12点と遺墨作品5点の163点。それに巡回展の役員作品51点。合計214点の合同展示である。

搬入は8月5日(土)9時会場集合。八戸市とむつ市在住の出品者が大半を占め、会場とは100km以上も離れているので、早朝の出立(しゃったこ)は少し疲れたと思う。しかし搬入段取りを念入り

に準備した工藤永翠事務局長と布施瑞弘搬入部長の指示により、順調に仕事が進み、午後2時には全て終了した。

1階は遺墨作品と巡回展理事以上の役員作品にして広々と空間をとった。

2階は審査会員の作品と中央には巡回展評議員の作品。3階は会員候補と無鑑査特選以上の作品。4階は無鑑査と一般入賞作品。全館を貸し切っての展示は圧巻である。

全て展示が終了後、書道関係以外の美術芸術に携わっている第三者の目と、言う観点から、我々は独りよがりになつていいか知る意味で、美術団体「科会から青森県立美術館館長の鷹山ひばりさんと講評戴いた。前衛や現代詩は絵画的感覚か寸評なれど鋭く作意を指摘する。

8月6日(日)10時開場。午後1時から辻元理事長の作品解説。理事長進行の元、担当理事の下谷洋子・常務理事と板垣理事の解説に統いて、小竹石雲常務理事と後藤大峰常務理事の解説と理事長得意の進行で会場に熱気が籠る。この日出席していた富山からお越しの津田海仙先生も急遽解説を命ぜられたが、見事に期待に応えた。

慌ただしく午後3時から少し長めの祝賀会が始まった。「ねぶた祭り」7時開催の為である。理事長の開会挨拶に続き、昨年11月青森市長に就任した小野寺晃彦様、鷹山宇一美術館館長、鷹山ひばり様、毎日書道会顧問の糸賀靖夫様の挨拶、そして毎日新聞社青森支局長足立旬子様の乾杯の御発声で会宴がはじまった。

工藤永翠社中無鑑査の工藤史音さん

こと(中村登世千穂)「千代の松」の祝舞で幕開け。書に向かっている時は一味違い、凜としている。

今年度の70回記念展は北日本支局から審査会員に与えられる賞「記念賞」の受賞と、審査会員候補に与えられる賞の最高賞「大賞」そして俊英賞や院賞など数々の受賞があり、その紹介と毎日展の会員審査会員昇格者の紹介と花束の贈呈をした。またサプライズとして辻元理事長に毎日書道展「文部科学大臣賞」受賞祝いとして花束を贈呈し宴会も賑やかに。

6時45分会宴の余韻冷めやらぬ間に「ねぶた祭り」の会場に40名の大移動、人混みは搔き分け残席席に。
山口、岡山、奈良、富山、群馬、千葉、仙台、石巻、塩釜、気仙沼と初めて「ねぶた祭り」を観覧する人や、5年前に観覧して今度は跳ねるぞと、衣裳を纏い「ハネト」として参加する者又せつかく残敷席を取ったのに、興奮して路上に出て乱舞・乱歩する者色々。

8月7日午前に毎日書道会西村修一専務理事が来青、鋭い觀察力を持つての作品鑑賞には驚くばかり、叱咤激励された気がした。会期中、観覧している方からの感想や質問もあった。青森は鈴木翠軒の名残があり、ほとんどの書家は翠軒流であり、見る人もほとんど翠軒流しか見ていない方が多い地域。前衛の質問には即答できず工藤永翠さんを呼んだが皆、新鮮に見えたようである。私が青森で講座を持ってている福祉センターやNHK文化センターの生徒達も、この書展を観て、すごい、すごいと。書に対する考え方を新たにしたようである。院の会員増に繋がるか。



板垣洞仙理事の作品解説



辻元大雲理事長の挨拶



後藤大峰常務理事の作品解説



小竹石雲常務理事の作品解説



70周年巡回展会場風景



津田海仙評議員の作品解説



鷹山宇一記念美術館館長 鷹山ひばり様の祝辞



青森市長 小野寺晃彦氏の祝辞



ねぶた祭り観覧
左から糸賀・下谷・辻元



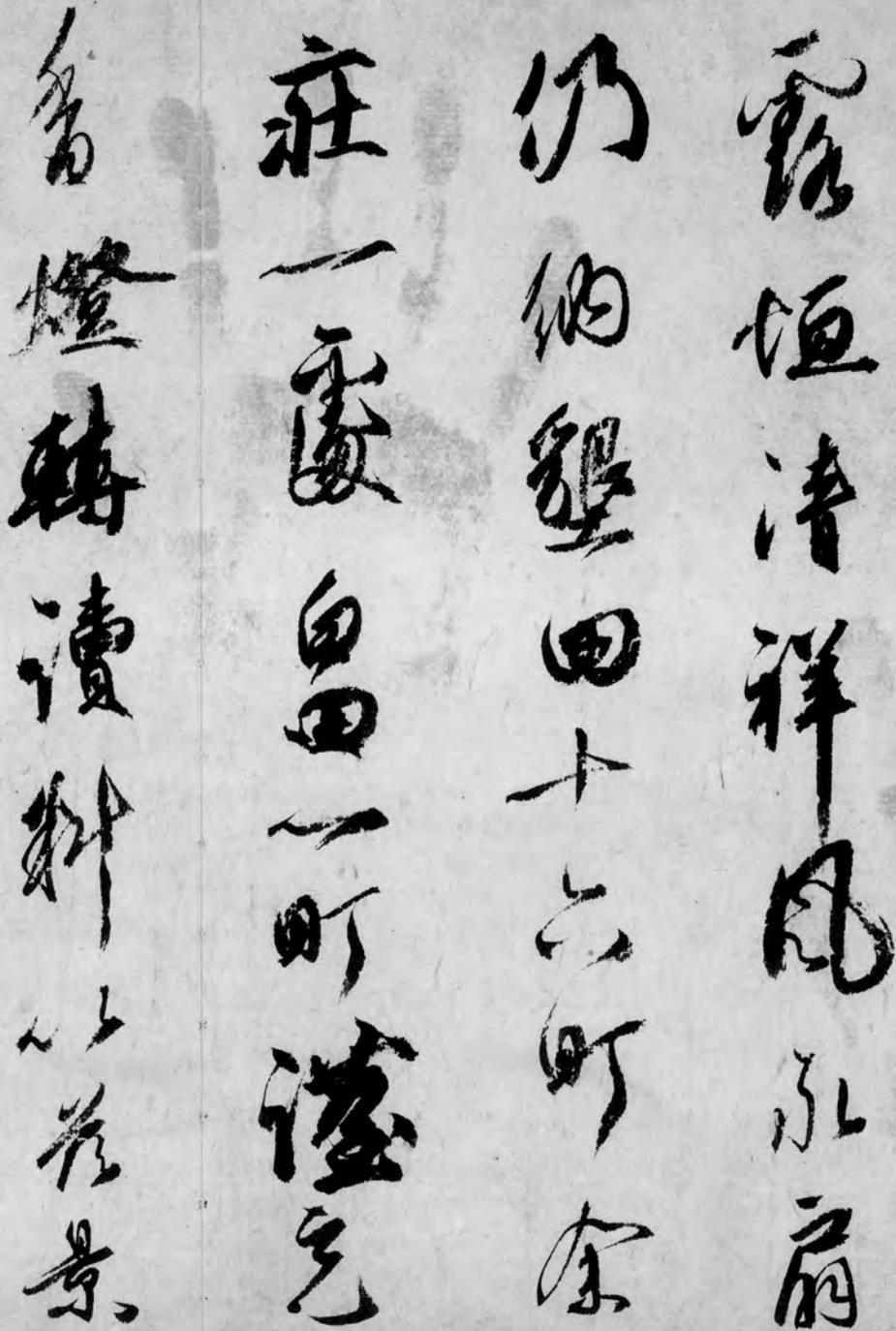
毎日新聞社足立旬子青森支局長の乾杯

伊都内親王願文
いとないじんのうがんもん

(平安・833年) ①

特別研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してよい。
当該古典の左記掲載部分以外も可。



宮内庁保管

(掲載図版65%縮小)

※落款を必ず入れる。
署名、もしくは〇〇臨
(押印のみも可)

〈解説〉 伊都内親王願文は、桓武天皇の第8皇女、伊都内親王(阿保親王の妃、?~861)が天長10年(833)9月21日、生母の藤原平子の遺言によつて、藤原氏の氏寺である山階寺(現在の奈良興福寺)の東院西堂に香燈および読經料として「墾田十六町、庄一処、畠一町」を寄進した祈願文である。

この願文は、江戸初期の能書で賀茂流の祖藤木敦直が鑑定して以来、三筆(他に空缺・嵯峨天皇)の一人橋逸勢の筆と伝えられているが、逸勢の確実な遺墨が伝存しないため確証はない。楷書・行書・草書の各体を巧みに用い、また緩急抑揚が自在で雄渾な書風が特徴である。(編集部)

露恒清、祥風永扇。仍納(墾田十六町余、莊一処、畠一町)謹充(香燈転読料)。以茲景

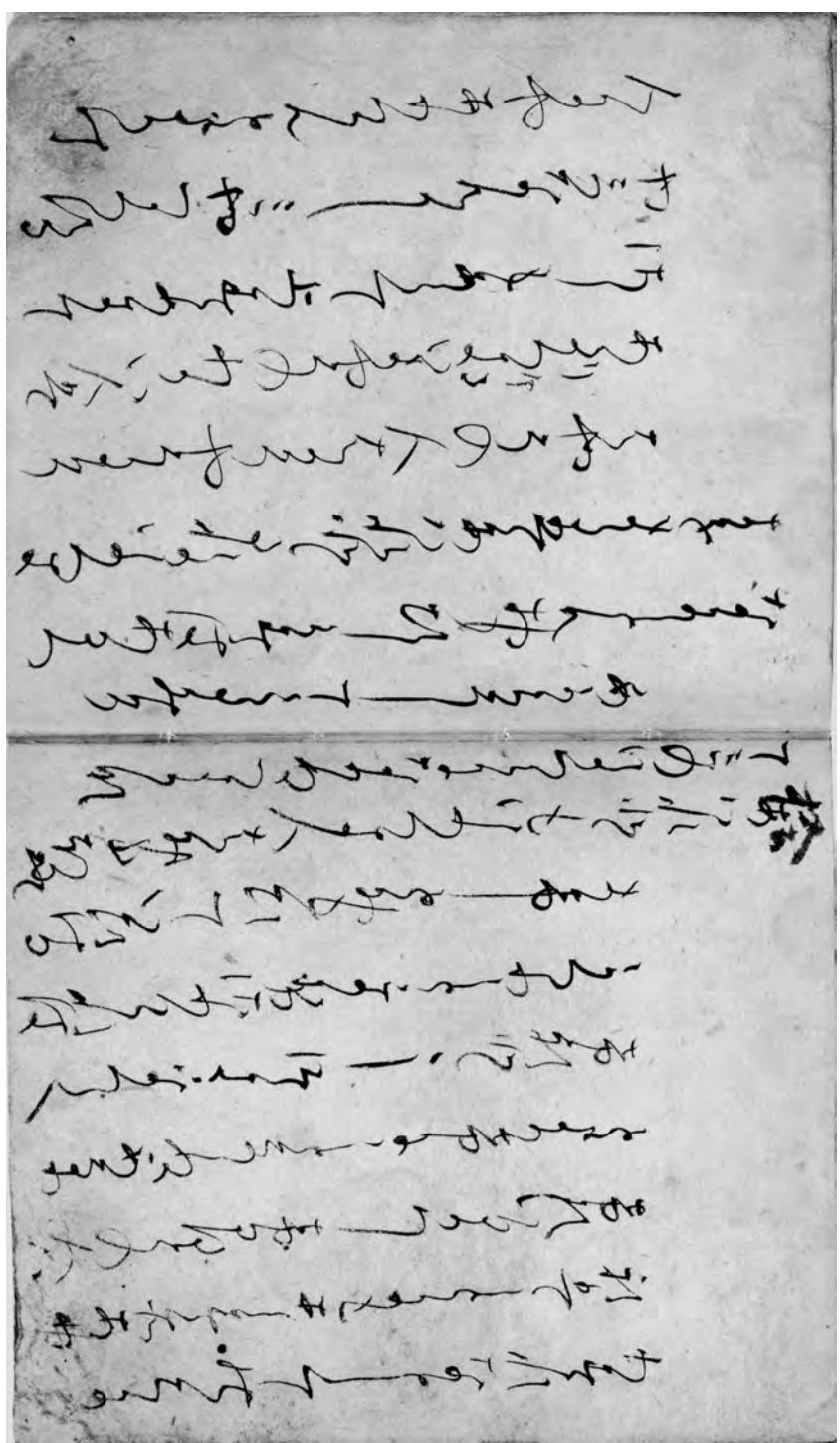
(個人藏)
 ※古筆は原寸(以上も可)で臨
 ※掲載図版は85%縮小。

(翻訳部)
 られてくる。
 定家(1167~1241)の筆跡として伝え
 筆者については、本文を西行
 和歌を収めている。

(翻訳部)
 分頃(1181~1194)の筆跡として伝え
 る。筆者につけたは、本文を西行
 和歌を収めている。

(翻訳部)
 女と恋愛の贈答歌を歌物語式
 蓬という人物に仮託して、豊薩と
 内容は、自らを大藏史生倉(いのくら)である。
 大和編の冊子本で、難13セント。
 われだ。

(翻訳部)
 余にあつたじとから一余撰政とい
 師輔の子であり、伊尹の屋敷が一
 ある。藤原伊尹は、右大臣九条
 須(す)個人の和歌を収録した家集
 解説一余撰政集は、藤原伊尹の



* 漢詩を書いたもの。筆がよく伸びる(墨田のむら)可。

かなか研究部	= 左記の古筆の複数部分より選一筆以上を書く。(全)翻訳可。
特別研究部	= (毎日展公募サイズ以内・縦横自由)

① 一 条 摨 政 集 (西行)

163

古筆鑑賞

習い方解説 (一)

最首翠風

和敬清寂
(禅語)



茶道で大切にされている精神を表す禅語である。また穏やかで慎み深く静かに落ち着いている精神。実用書に最も適する書体、行書による参考作です。行書体について復習してみましょう。行書は概ね曲線的で筆脈が線となって顯れることがあります。また行書の省略が生まれました。

フ→レ 禾→キ サ→ス
手→シ パ→ヒ 門→ム

その他

。行書の代表的古典

- 蘭亭叙・集字聖教序 (王羲之)
- 争坐位稿・祭姪稿 (顏真卿)
- 風信帖・灌頂記 (空海)
- 枯樹賦・哀冊 (褚遂良)
- 温泉銘 (太宗)
- 左繡叙 (菘翁)
- 等々

習い方解説 (一)

千葉蒼玄

天氣清和
(天氣清和)

(張協)

天氣清和
(天氣清和)
気候が良く空氣も澄んで清ら
かである。

楷書の基本は唐の三大家に遡る。

その他にも特徴的な古典もたくさんある。今回から担当するが、まず自分の中の基本的な楷書を書いてみたい。字形は唐の三大家、歐陽詢、虞世南を基に伸び伸びとした形を目指した。

余談になるが漢民族は3文字の名前が多いが三大家は、虞・世南、褚・遂良に対し歐陽詢だけは苗字が歐陽で名前が詢である。



書体＝楷書



歐陽詢 九成宮醴泉銘

かな規定 初段以上【十一月十五日締めきり】用紙 半紙普通判（料紙可）

平川峰子選書

習い方解説 (一)

平川峰子

さびしさはみ山の秋の朝ぐもり
霧にしほるる楓のした露
(新古今和歌集・後鳥羽院)

この和歌には、しどのが3つ、
きとりが2つ（秋をかなにすれば
増えます）含まれていますので、
字典でほかの変体がなに替えてみ
てください。2行目のは秋に続
ける意志、4行目のは5行目の
頭に続ける意志が重要です。墨繼
ぎは起きました。朝と志の2ヶ
所する場合は字が大きくならな
いよう、気をつけてください。5
行の構成にしましたが行間の広さ、
行頭と行尾が揃わないよう注意し
てください。

次の展覧会がお薦めです。

嵐山記念館（港区白金台）

「近代数寄者の交遊録」

—益田鈍翁・横井夜雨・嵐山即
翁— 10月7日㈯～12月17日㈰

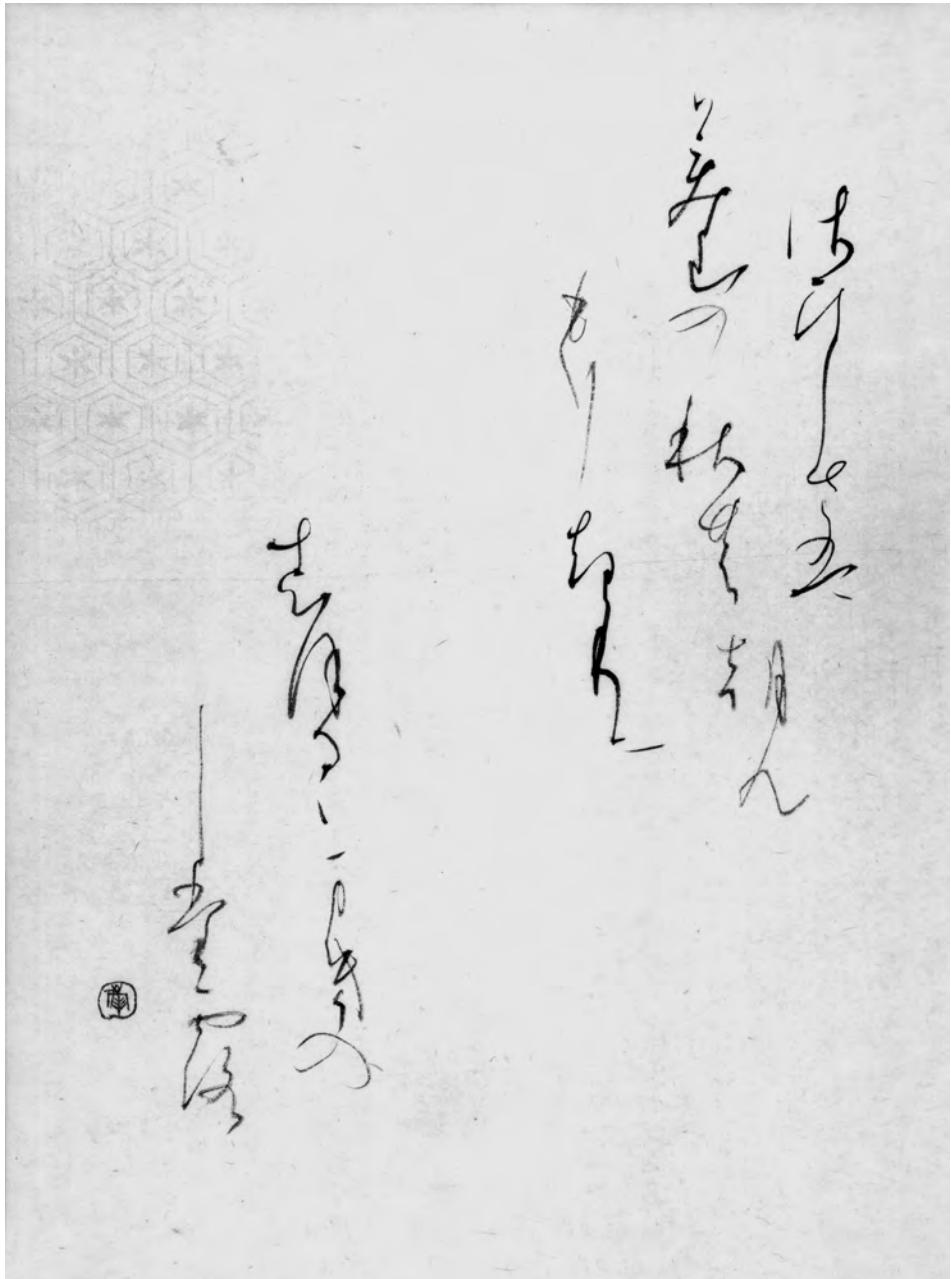
出光美術館（千代田区丸の内）

「書の流儀Ⅱ」

11月11日㈯～12月17日㈰

創作

よみ方 さ(佐)びしさは(盤)み(美)山の秋の(農)朝ぐ(九)も(毛)り
き(起)り(利)に(一)し(志)ほ(保)るる(一)ま(万)き(幾)のした(堂)露



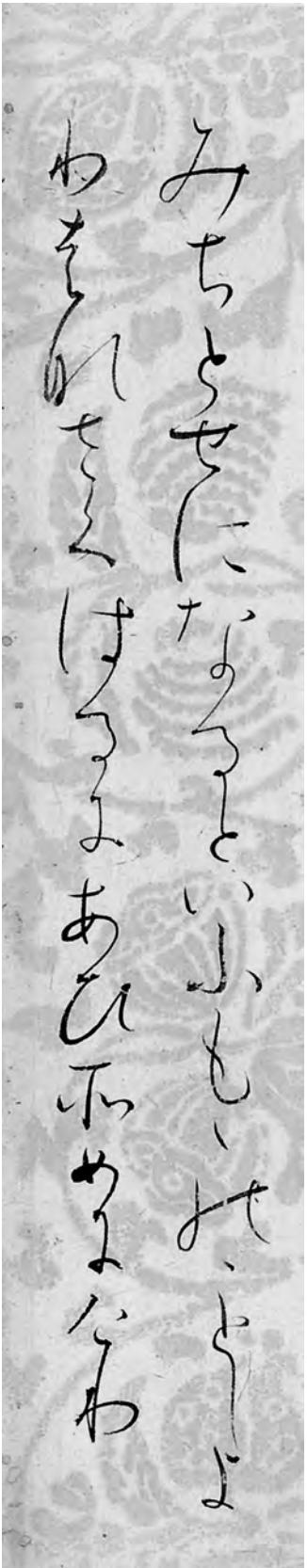
かな規定 秀級以下

【十一月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

◎四月号より課題を「粘葉本和漢朗詠集」に変更いたしました。

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大111%)



よみ方 みちとせになるといふもゝの(能)ことしよ
り(利)は(者)な(那)さく(久)はるに(尔)あひそ(所)めに(尔)け(介)り(利)

習い方解説 (一)

木村 東舟

秋風は吹き結べども白露の
乱れておかぬ草の葉ぞなき
(新古今和歌集・大式三位)

かな条幅規定【十一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

木村 東舟選書

かな条幅規定【十一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

なるべく解りやすくを念頭に作
品作りをしていますが、漢字と平
がなのみでは平凡になってしま
ので、時々変体がなも使用してい
ます。

よみ方 秋風は(八)吹(ふ)き結(無寸)べ(遍)ども白(しら)露の
乱(三多)れてお(於)か(可)ぬ草の葉ぞな(那)き(支)

創作

書き出しは少し小さめに。文字
の大小、太細をうまく織り交ぜて
変化を出しましょ。部分的に渴
筆を出して、遠近感のある作品に
なるよう研究して下さい。

*タテ形式に限る

名 越 蒼 竹

黒雲翻墨未遮山
白雨跳珠亂入船
蒼竹書

黒雲翻墨未遮山 白雨跳珠亂入船
(黒き雲は墨を翻すも未だ山を遮らざるに、白き雨の珠を跳ばして乱れて船に入る。)

書体=自由

初段以上の方は創作力もついていると思います。ただ臨書を怠ると癖が固まってしまいます。深化も重要ですが幅を広げることも怠らないようにしたいものです。
年度後半は楷書・隸書・行草書を取り上げることにしました。もちろん参考作品と同じ書体や書風でなくとも構いません。1回目は唐風楷書で。一部書写体です。
※タテ形式に限る

習い方解説 (一)

大 平 岳 峰

漢字条幅規定 秀級以下【十一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

大平岳峰選書

能事不受相促迫

能事不受相促迫
(能事は受けず相い促迫するを)
(杜甫)

書体=自由

古典を生かした楷書作品にチャレンジしてみましょう。
まずは、魏の鍾繇が書いた薦季直表を参考にしてみました。古い時代の楷書(真書)は、軟らかで素朴な筆使いが特徴です。楽な気持ちで書いてみましょう。

ペン字規定【十一月十五日締め切り】

北村白琉選書

習い方解説(一)

北村白琉

今月より6ヶ月ペン字を担当させていた
だきます。

まず私の好きな宮澤賢治の「雨ニモマケ
ズ」の冒頭の一節を選びました。祈りにも
似た詩そのものには、若い頃から憧れてい
ましたが、小さな手帳の遺稿を見た時の感
動は忘れられません。巧まず淡々と書かれ
た漢字交じりの片かなペン字は、内容と
相俟ってぐんぐん心に迫ってきました。

紙面の都合で1行目を詰めて書きまし
たが、構成も書体もこれに囚われず、思い思
いに書くのも良いと思います。作者名題名
を入れても構いません。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

白琉書

雨ニモマケズ 風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケズ
丈夫ナカラグヲモナ
慾ハナク 決シテ瞋ラズ
イツモシヅカニワラツテキル

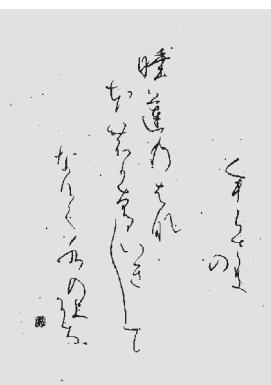
用紙=はがきの大きさ(14.8×10.5cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品
各部総評 NO. 676

かな部 師範 小林 嘉江
行数の多い構成が煩雑でなく、
暖かい線質が優しい作品を生んだ。
◎かな部総評 全般に字が過小で
貧弱な作品が多く残念。水の草書
体の誤字が多出。作品の完成度の
前に正しく書く努力を! (明子評)



漢字条幅部 師範 武部 光子
軽妙、洒脱な運筆が小気味よい
リズムを生み出して妙。潤渴の変
化もバランスよくまとった作。
◎漢字条幅部総評 上級20字表現
は隸書風が多かったが安定感を見
せて良。行草表現は弱々しいもの
が眼についた。要努力。(大雪評)



前衛書部 特選 石森光季
ごく自然体で運筆された傑作。
嫌味なく鑑賞者に安心感を与える。
◎前衛書部総評 筆の性質をどう
まわりの空気を浄化する感あり。
生かすか。深い線、輝く線を生み
出すには? 研鑽を。(京子評)



現代詩文書部 特選 茂木絢水
のびやかな筆線が空中を舞い又
一方ではそれを引き締める線が明
暗の変化となり爽やかさを見せる。
◎現代詩文書部総評 各自工夫を
こらした作品が増え喜ばしいが、
粗雑にならないように。(石雲評)

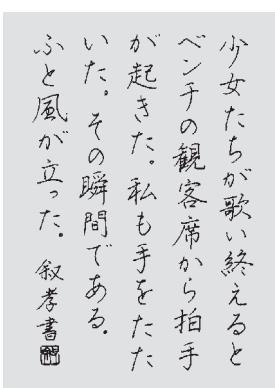
漢字部 師範 船津裕扇
無欲で大らか。語句の内容にふ
さわしいが落款の過小が惜しまれ
る。筆を替える等まだ楽しめる筈。
◎漢字部総評 一支部一書風の傾
向だが、その中で他者と異なる何
かが欲しい。秀級以下は楷書を極
めたい。(翠風評)



かな条幅部 五段 白井真里
やや小ぶりだが、かなの流れを
よくつかみ、潤渴も巧み。自然な
リズムが美しく品格を感じさせる。

◎かな条幅部総評 近・蟬・露と、
かなではよく使われる漢字ですが、
誤字多く残念。また渴筆の出にく
い加工紙は工夫必要! (洋子評)

ペン字部 師範 安藤叙孝
行書でありながら楷書の方正な
書体を醸し出す。布置見事。書い
ている呼吸がこちらにも伝わる。
◎ペン字部総評 上下、左右の余
白、行間のバランスも上手く配置
され安定した作品が多く快い。漢
字、かなとの調和を期待。(雪枝評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

臨書 (千葉)

竹浪叙舟



145×35cm

竹浪叙舟臨

「雨音」

前衛書

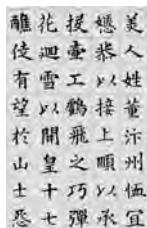
(蓮紅社)

田村紅泉



179×60cm

部分拡大



145×35cm

◆的確着実な臨書で、真面目に古典に向き合う姿勢を買う。やや肉太な感あり、更に鍛練努力を。(大雲評)

◆特徴を表現する力量が、多々見られ日頃の努力が実る。統一感がよく墓誌銘の作品に敬服です。(藤扇評)

◆端正な字形、整然とした筆法等、隋代の墓誌銘の特徴を正確に捉え秀逸。いつもながら、細字表現のセンスの良さ抜群です。(紅瑠評)

◆上部から下部へ大胆な動きを見せ、渴筆の幅広な線条が紙面に明るさを醸している。太細の筆部分が柔らかな雰囲気を醸す。(大雲評)

◆エネルギーの連筆が紙面に大きな動きを与えている。渴筆部分が柔らかな雰囲気を醸す。(紅瑠評)

◆一氣通貫を感じる作。筆者の玄妙な心意気が伝わってくる。明るさも表現され白と黒のバラエス美し。(藤扇評)

◆重厚な厳しい筆致に渴筆が生きて、軽妙な清々しさを感じる。紙面を悠然と線が支配して爽快な作。(多希子評)

◆縦横に太・細の線を巧みに配置し、風通しの良い明快な作品。鍊度の高い筆法が見る人を魅了する。(多希子評)

◆切れのある線は前半に窺えるが、後半の処理を検討したい。情緒の味わいを表現されたがやや弱い。(藤扇評)

◆淡々と自然な運筆で横展開した作。太細、潤渴の変化もバランスよくまとまる。ややおとなしかつたか。(大雲評)

「造化の使者」

現代詩文書 (もくせい会)

西川藤象



西川藤象書

45×180cm

◆端正な字形を乱れず一氣貫通した臨書に感服します。清々しい感じをいかだせる習熟した作品です。(多希子評)

(紅瑠評)

◆端正な字形、整然とした筆法等、隋代の墓誌銘の特徴を正確に捉え秀逸。いつもながら、細字表現のセンスの良さ抜群です。(紅瑠評)

前衛書

(青蓮) 鮑名空心



鮑名空心書

144×60cm

「フェニックス」

現代詩文書

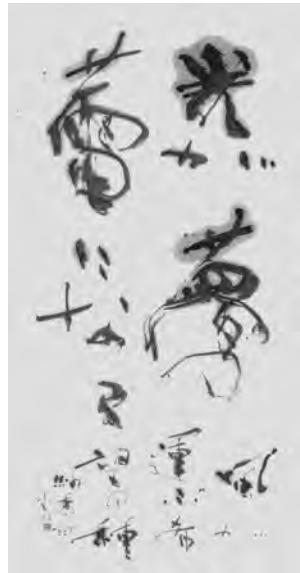
(大拙社) 嶋中成山 「絢香の詞」

◆ 独特の青淡墨による潤渴が紙面に動きと味わい深さを感じさせてくれる。最後の落款やや弱いか。(大雲評)

◆ 宿墨をうまく使用。長鋒の筆を気迫ある筆致でとらえ、二部構成を見事に成功させた。安定感のある作。(藤扇評)

◆ 生き生きと躍動する文字が紙面を圧倒している。墨色の潤渴が、近景と遠景の美しい趣を表現された。(多希子評)

◆ 淡墨の豊かな表情を見せる大字部分と下部の小字部分がよく呼応し、構成が巧み。疎密の利いた線のリズムが心地よい。(紅瑠評)



137×70cm

島中成山書

137×70cm

かな (千葉) 平野笛舟 「高野切第三種」



平野笛舟書

60×174cm

部分拡大



(大雲評)

◆ 濃墨によるダイナミックで、気迫に満ちた線条が見事。上部の弧を描く飛沫が造形の広がりを見せてている。(紅瑠評)

(大雲評)

かなか

◆ 第三種をよく鑑賞し、明るくされ、かなの世界を楽しんでいるよう。美しい文字造形を表現された。(藤扇評)

◆ 第三種の特徴を思う存分發揮され、かなが細く厳しい線質がやや物足りない。(多希子評)

◆ 古典の特徴を正確にとらえ、着実な臨書表現。料紙との調和もよいが細く厳しい線質がやや物足りない。(大雲評)

◆ 第三種の特徴を思う存分發揮され、かなが細く厳しい線質がやや物足りない。(多希子評)

◆ 第三種の特徴を正確にとらえ、着実な臨書表現。料紙との調和もよいが細く厳しい線質がやや物足りない。(多希子評)

◆ 第三種をよく鑑賞し、明るくされ、かなが細く厳しい線質がやや物足りない。(多希子評)

◆ 大きな2つの集団が紙面にからみ合って動きある表現となつた。やや墨色が甘いかな。(大雲評)

◆ 飛沫に生彩を表現し、上下の鮮烈な配置が生きる。エネルギーでなおかつ、堂々たる高度な作。(藤扇評)

◆ 右に広く開けた余白が紙面を明快にしている。傾斜する渴筆は強靭な線条で安定した流動感がある。(多希子評)

創作の部(52点)		現代書の部(35点)	
漢字	かな	漢字	かな
前衛	—	—	—
篆刻	—	—	—
漢字—4点	—3点	漢字—33点	—22点
かな—2点	—	かな—2点	—
〈特選候補者〉	—	〈特選候補者〉	—
〔漢字〕	〔かな〕	〔漢字〕	〔かな〕
もく 森田 藤谷	八戸 市川 加美 小川 紫泉	如月 治田 芳江 空華	藤田 篤信 板橋 雅邦
〔現代詩〕	〔高野切第三種〕	〔かなか〕	〔かなか〕
〔臨書の部〕	〔前衛〕	〔前衛〕	〔前衛〕
秀水 門脇 信子 孫功	大拙 荒木 白珠 石澤 徳子	大拙 荒木 白珠 石澤 徳子	大拙 荒木 白珠 石澤 徳子
篤信 三浦 朱鳳	篤信 三浦 朱鳳	篤信 三浦 朱鳳	篤信 三浦 朱鳳
〔漢字〕	〔漢字〕	〔漢字〕	〔漢字〕
千葉 猪又	千葉 猪又	千葉 猪又	千葉 猪又
A I 藤村 江本	A I 藤村 江本	A I 藤村 江本	A I 藤村 江本
大雲 池田 千葉 渡辺	大雲 池田 千葉 渡辺	大雲 池田 千葉 渡辺	大雲 池田 千葉 渡辺
うる 国吉	うる 国吉	うる 国吉	うる 国吉
眞雲 真雲	眞雲 真雲	眞雲 真雲	眞雲 真雲
秋湖 昌子	秋湖 昌子	秋湖 昌子	秋湖 昌子
湖静 興舟	湖静 興舟	湖静 興舟	湖静 興舟
理扇 理扇	理扇 理扇	理扇 理扇	理扇 理扇
33	87点	総出品点数	—

漢字研究部
(美人董氏墓誌銘)

選評名越蒼竹

今月のホープ作品



翔 谷 熊

漢字研究部 総評
六朝北魏から初唐にかけて、楷書が洗練さ
形・線質共に完成度が非常に高い。石に刻さ
れた時の鑿の切れ味がよく表現されており、
古典を半紙に臨書する時の態度として、他の
模範るべき作品となつた。落款は一考を要す
のでは?

れていった過程が窺える名品であるがゆえに、
その特徴の出し方は却って難しかったと思
います。この課題の前が牛櫛造像記だったため、
その特徴を引きずられたり、初唐楷書のよう
な縦長な字形になってしまった人もあります。
陰刻の拓本だと実際よりも線が細く出てしま
うので、このように細めの字の場合、頭のな
かで少し修正するとよいでしょう。



春雅光祥信江
峽裕子扇代彩

正絢美真良彩
枝水艸理子香

紅芳由寬靜雅
霞枝子子悠

恵清和加江
子泉耀江

かな研究部
(高野切第三種)

運評 勝山初美

今月のホープ作品



温幸芝

雅美佳代
雲艸子

寿紅嘉
子霞江

裕清絢
美耀水

後藤良泉

◎かな研究部總評
かな線質の特徴を良く捉えていました。文字の大きさ
過ぎる作品が見受けられ、余白にもさらに注意を/
墨の潤渴良く、滑らかで自然な運筆で高野切第三種の美しさと穏やかさが表現されています。

かな研究部成績表

大椿誠光も玉雲翠和彩く松秀 玄若八澄一うや石松紅椿玉詢N木東大蒼たA五清雲大宗颯穹葉街春宮るま習鑑村翠松扇H曜向雲陽か!松月雀雲苑菱

草大石浅青青作 千工井字鶴飯伊松須青安田鉢川堀昌積込梅伊橋小下礪茂後藤
刈島崎川木木み 川葉藤上田田高東丸木木藤中木田江山田山津藤本林津貝木藤
眞昌甘な藤菱華子雨江漣鄉 陽山芝春雅幹京愛香玉代耶利溫幸芝雅美代壽紅嘉裕清翰良
華子雨江漣鄉

調東清高櫻五高長蓮樹たは玉高水上遊桜上の秀 竜澄A蕙清高潮樹高奥
布伯月崎草葉井崎月紅原かせ松崎泉州海雲草泉か水 泉春I書月崎音原崎田

行山大矢守森松增本早浜長長根根西苗中樺寺高泉新清坂境酒齋紹小小高
平本和口友田田浦田坂野谷津岸岸澤代村泉澤橋水行水本野井藤野峰林武
由志川内由良真紀登津睦代玉佳美梅永久飞正ひ彩佳ケ雪悟雅龍満紀里和知遊加純玄
江紀江江子子江子雪艸董子峰龍子峰恵子董子泉宝子美子子邑山子風城

白高陵 入 椿桜華玉竹蘭硯白墨幕清上大青大耕秀秀や澄上弘稻蒼樹た墨千附正幕長東蘭大 正苑も高た誠澄正坪游五紅
翠橋草仙川美鼎水露宣張月泉雲蓮雲水畠ま春泉舟毛原原か花葉中華張月向鼎雲" " 華書くか和春華和水葉瑤
相會 遷 綿吉山山谷八森宮南真松本堀沼中土富筑田高高渋齊近小小河國木北木菅川河金加加小岡櫻梅鷗岩石安荒秋藍
内木 井田口久 知木澤庭島下多切田井木澤井玉橋草谷藤田藤林口野峰原村暮野崎合谷藤瀬野部田木澤瀬川藤川山澤
沙勇介 お佑美雪 美紀直草玉ケ翠佐和幸奎清弘憲高哲幸代美美舞淑晃智惠琴輝典静優和寿春日加久和簞琴祥津裕久白
子翠子舟子秋枝雲心香枝子子子夢子代子子翠子舟子代子子翠子舟子代子子翠子舟子山舟園子子泉枝珠

土高誠扇竹樹書正松た静硯光竹大高澄八や大こ生た大英高生立千広梓誘こ大伏玄高A澄陽童う蘭華千文こ水洞生大澄松
氣崎和筆原游華村か紅水彩美雲崎春街ま阪だか雲峰崎大精葉島江韻こ阪華穹真I春陽泉月だ海書大阪春村

鈴杉神新代庄庄柴鹿狼佐佐櫻櫻驚酒齋齊小小越河黒吉北北菊菊川加加小小尾梅生植岩今市板石石五飯安新天阿青
木田宮谷條田司田田渡藤々田田山井藤藤林島川野柳瀬村又地本元納藤野熊形山方田崎村閑川垣川井十泉藤井羽天久
幸世木かふ 瞳玉翠三葉紫咏洋志董雅龍智美恵翠桂つ萩み静白竹彩欣春白泰南茱順翠萩代紅久美美陽貴心チ青晴澄佳洋楊翠蕙洗隆松
陸祥玉翠三葉紫咏洋志董雅龍智美恵翠桂つ萩み静白竹彩欣春白泰南茱順翠萩代紅久美美陽貴心チ青晴澄佳洋楊翠蕙洗隆松
風枝光郎子千艸子江右子貞舟梢子香え江子雄董葉雨子峠雅峰汀仙子陽光子霞子枝光泉華子鳳洞水采子風寶子草華月

昌琇竹蓮幸竹己高や高椿王もあ松調春こ大黎琇生書生"澄大長千京 正洞秀王白澄泉黎一雲大小千大も春高泉立翠琇東玉
遷苑韻美紅扇扇未陵ま真翠川くか村布汀だ雲明韻大径大" 春阪月葉橋 華書水川珠春会明葦溪阪映葉阪く汀真会精柳韻美川
外170 吉吉横遊山山山山山安森森本茂武宮宮三松眞牧前藤深深廣平平春嶮林濱花野西浪永中中仲中豊戸富戸渡鶴辻千近竹高
名氏名略 舟佐本村根田口岸鳴本田吉木藤野川浦木塙野田本堀澤地山山岡尾 田里中山川田村村西西嶋村田部子淵 田池内山原
翠幸蘭紅梅炎美明律余沙悦藤明翠薰津洋道彩榮清幸喜清佳美だ彩聰ほ美竹智喜葵秋時理一游惠 博秋藤紀亞洋白柳智靖貞
綾惠舟雅香秀子子美子子谷香芳睦枝子子夏子次子惠洗月幸子華春る子雪子子龍花子佐琴溪子勝舟彩風子希子香芳子子